

AED(突然死救命)編

Hayasaka Report 2016.3



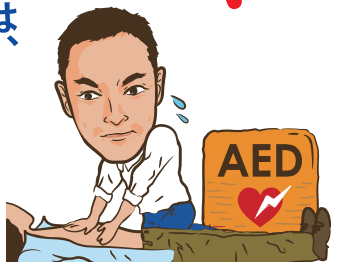
発行

都議会
自民党

東京都議会議員 早坂よしひろレポート

偶然そこに居合わせた人が とつさにAEDを使えるかで、 その人の生死は決まります。

わが国では年間7万人が、心臓突然死で亡くなっている。心臓突然死は、心臓の持病がない人でも、例えばボールが胸に強く当たったりすることで、誰にでも発生しうる事態である。その心臓突然死からいのちを救うのがAED(自動体外式除細動器)だ。そこでAEDの有効性と課題について報告する。



早坂 本日はAEDの第一人者である、三田村先生にお話を伺います。

三田村 「ミスター防災」との対談、うれしく思います。早坂さんはとても多くの防災訓練に参加していらっしゃいますね。

早坂 はい、防災訓練に合わせて、AEDの講習も数多く行われています。実は先日参加したAED講習で、大変なことに気づいたので。

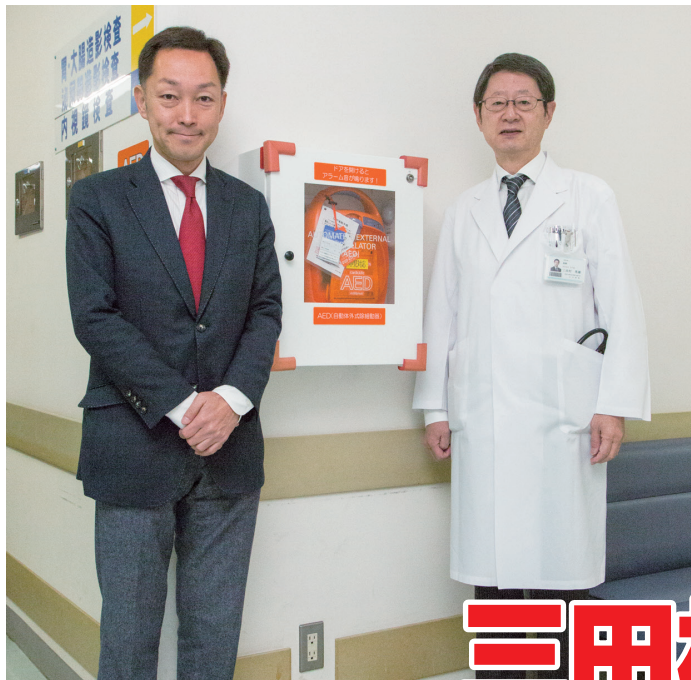
三田村 どんなことですか。

早坂 AEDの講習が行われたのは、小学校の体育館。心臓停止が発生したので、AEDを取ってきてもらい使用するという想定です。訓練ですから、AEDは予め体育館に用意されています。そこで訓練終了後、実際にAEDがどこに設置されているかを確認したら、何と鍵のかかった保健室の中だったのです。

三田村 さすが、ミスター防災。単に使用法の説明ではなく、実際にどこに設置されているか。そこは誰の目にも入り、すぐにわかる場所か。そういう気づきの積み重ねが、AEDの実効的な使用に結びつくのです。

早坂 先生のお立場から見て、AEDの現状に関して、何か問題がありますか。

三田村 AED使用の切迫性が、あまり伝わっていないのではないかと思います。何らかの理由で心臓が止まると、その蘇生率は1分ごとに10%ずつ減っていくとされています。すなわ



三田村 秀雄

× 早坂よしひろ

いつてもいいでしょう。

早坂 なるほど、それほどまでに切迫性が重要なのですね。ですが倒れている人をむやみに動かしてはいけないと聞いたことがありません。

三田村 それは、倒れている人に指一本触れてはいけない、ということではありません。いのちを救うという最も重要な観点からすれば、問いかけたり肩を叩いても反応がなければ、直ちに心臓マッサージを。AEDが到着するまでの間とAED使用後も、救急隊が到着



〈プロフィール〉
三田村 秀雄 (みたむら ひでお)
● 国家公務員共済組合連合会 立川病院院長
● 慶應義塾大学医学部客員教授
● 日本循環器学会
AED検討委員会委員長
● 「減らせ突然死」プロジェクト 実行委員会委員長

〈裏面〉

AEDが必要な場面で使われていないのは、何ともつたいたいないと歯噛みする思いです。

するか本人が嫌がる反応を見せるまで(※)心臓マッサージを続ける必要があります。早坂 AEDでいのちが助かった例に、どんなものがありますか。

三田村 代表的なのは、東京マラソンです。過去7人の心臓停止がありました。直ちにAEDを処置したおかげで、7人ともいのちが助かっています。タレントの松村邦洋さんもそのひとりですね。

早坂 AEDの使用は、社会全体でうまくいっているというのでしょうか。

三田村 AEDを使用した



AEDを使用した場合の救命率は、極めて高い。

場合の救命率は、極めて高いといえます。しかし問題なのは、AEDが必要な場面でAEDがほとんど使われていないということ。全国で一般市民に目撃された心臓停止のうち、AEDが使用されたのは、わずか4%に過ぎません。AEDを使えばその多くが助かるのに、何ともつたいたいことを、と歯噛みする思いです。

早坂 確かに、私がこれまで参加した数多くのスポーツ大会で、AEDに関する注意喚起のアナウンスを、ただの一度も聞いたことがありません。文化イベントなら、非常口はあちら、というアナウンスがあるにも拘わらずです。

三田村 スポー

ツと学校が、AEDの実効的使用のカギだと思えます。どちらも倒れた瞬間が目撃されるということ。そしてAEDを取ってこられる人が



スポーツと学校が、AEDの実効的使用のカギ。

そばにいるということ。昨年9月の都議会本会議で早坂さんが舛添知事に、このことを力強く訴えて頂き、感謝しています。

早坂 お陰さまで、2020東京オリンピックのレガシー(遺産)計画にも、AEDの実効的使用が入りました。「防災」とは、突き詰めていけば、いのちを守ること。災害時はもちろん、平時の防災もしっかりと考えておかななくてはなりません。

三田村 長い人生



活躍するモバイルAED隊

のうち、一度でも人のいのちを救うことが出来る場面に遭遇して、かつ救命に成功したら、こんなに素晴らしいことはありません。その方は英雄です。社会全体で、そうした行為を讃えるしくみを考えるべきでしょう。AEDの更なる普及に、ぜひ力を貸してください。

早坂 もちろんです。先生、本日はありがとうございます。

※「本人が嫌がる反応を見せるまで」

AEDで電気ショックを行えるのは、2分毎です。その間(つまり最初の電気ショック直後から)心臓マッサージを継続しないと、心臓は止まったままかもしれません。また電気ショックで心臓が再び動き出したとしても、当初の血圧は40程度で、脳にまで血液を送ることが出来ません。徐々に回復しますが、80程度にまでなれば、嫌がる反応を見せたりします。その時点まで心臓マッサージを継続してください。なお回復した心臓に心臓マッサージを行っても、それが人体に悪影響を及ぼすことはありません。(三田村)



早坂よしひろ
ミスター防災

プロフィール

- 昭和43年 荻窪の東京衛生病院生まれ(47才)
- 西田幼・西田小・松浜中卒業、大検合格
- 立教大学法学部(北岡伸一ゼミ)卒業
- 働きながら明治大学公共政策大学院(青山伸ゼミ)修了
- 防災情報機構NPO法人事務局長として全国講演
- 平成17年 東京都議会議員に初当選(現在3期目)
- 東京都議会防災議連幹事 ●日本防災士会東京都支部長
- 明治大学客員研究員 ●都議会予算特別委員長 <災害調査>
- 米国 ハリケーンカトリーナ、中国 四川大地震 他、国内外多数。
- 東日本大震災では発災当日に被災地入りし、支援活動を行う。

バックナンバーをご希望の方はご一報ください。

- <2011年3月号> **高齢者の住まい** 編
- <2012年1月号> **緩和医療** 編 東邦大病院医師 大津 秀一さん
- <2012年3月号> **被災地の復興** 編 明治大学大学院教授 青山 伸さん
- <2012年7月号> **オリンピック** 編 オリンピック写真家 岸本 健さん
- <2013年3月号> **首都直下地震** 編
- <2013年5月号> **ロボット手術** 編 金沢大学心臓総合外科教授 渡辺 剛さん
- <2014年9月号> **男の子育て** 編 文京区長 成沢 広修さん

皆さまのご意見をお寄せ下さい。

